「水滴穿石」　水滴(したた)りて 石を穿(うが)つ

11月になり、秋も深まってきました。登校坂から校舎の周りの木々たちは葉を落とし、冬に備えています。夏鳥たちは南の国に移動し、動物たちも冬眠の準備にかかりました。そして、私たちの生活も、これから冬に向かっていきます。今さら言うまでもないことですが、雪国（雪が多く降る地方）の人間にとって、冬の生活はとても厳しいものです。春、夏、秋の生活とは全く違う覚悟が必要です。

さて、この冬を前にして、私が普段から大切にしている言葉を紹介したいと思います。それは、「水滴穿石」(みずしたたりて いしをうがつ)という言葉です。水が滴るとは、一滴一滴、水のしずくが上から落ちてくることです。その水の量は極わずかであっても、何年、何十年、何百年と時間が経てば、硬い石にも穴をあけることができる。つまり、どんな小さなことでもこつこつと続けることによって、大きな成果を上げることができるということを表現した言葉です。私たち一人一人の力はとても小さなものですが、困難なことがあってもあきらめず、少しずつ少しずつ続けていくことによって大きな結果につなげることができます。皆さんには、その自分の力を‥、そして仲間の力を信じて、くじけずに頑張り抜く人間になってほしいと思います。

これから私たちは厳しい冬を迎えます。春から秋までを「動の時期」とするならば、冬は「静の時期」と呼んでもよいのではないでしょうか。この「静の時期」という言葉に甘えて何もしないようでは、そこに成長はありません。この厳しい冬という季節に何ができるのか、一人一人がよく考えて生活していくことが必要です。部活動では、いわゆるシーズンオフに入りますが、この時期にどれだけ基礎体力をつけ、技術を磨き、精神を鍛えることができるかが、来年度の夏から秋にかけての大会の結果につながっていきます。

「水滴穿石」の精神を強く持って、これからの活動を実のあるものにしてほしいと思います。

❤ Happy Birthday　11／５‥本庄谷 惟 さん